

“ほっと”里山

しあわせづくり 活動計画

庄原市
地域福祉計画



平成 21 年 3 月
広島県庄原市

“ほっと”里山

“ほっと”は、情熱や元気、意欲などを意味する「hot」と、「ほっと^{ひといき}」など、くつろぎや安心の意味を兼ねています。

里山は、私たちのふるさと「庄原市」を意味しています。

“ほっと”里山は、この計画策定にかかわり、今後、しあわせづくり活動を行う協働組織の代名詞です。

はじめに

農業を中心としたかつての日本では、「相身互い」「おたがいさま」といった相互扶助の精神が人々の暮らしを支えていました。しかし、戦後から高度経済成長期を経て、工業化や都市化、地方から大都市への人口流出が続き、産業構造や人口バランス、地域コミュニティまでもが急激に変化する中で、生活を支援する行政の役割・領域は、確実に広がっています。

公的な福祉サービスは、主として戦後の貧困者救済からはじまり、高齢者や身体・知的・精神障害者の福祉施策など、時代背景やニーズに沿って対応が図られ、特に1990年代以降のサービス基盤の整備、介護保険法や障害者自立支援法の施行も相まって、その質や量は飛躍的に充実・発展しています。



このように、公的支援という視点での福祉施策が充実する一方、多様な住民ニーズや既存制度で解決できない生活課題について、行政のみが担い・対応することは不可能であり、また、適切でないことも明らかになっています。

加えて、地域社会の変容や住民意識の変化、さらには退職年齢に達した団塊世代の生活基盤が職域から地域に移行する中で、地域活動を通じた自己実現を求めるニーズも高まりを見せており、誰もが「生きがい」や「社会的役割」を意識しながら「福祉」に参加することが、より豊かな生活につながるものと期待されています。

本市においては、過疎化や少子高齢化の進行、基幹産業の衰退、厳しい財政状況をはじめ、各分野に及ぶ地域特有の課題が、年々、深刻化しており、これら課題に対して特効薬を見つけ、直ちに完治させることは困難と言わざるを得ませんが、できることから実行し、小さな成果を集め・重ねることで花を咲かせ、また次の種をまくことが未来を切り開く第一歩であると考えています。

この計画では、「福祉」を「市民のしあわせ」という広い視点で捉えるとともに、多くの行政計画が、その基本方針や推進の原動力に“協働”と“補完”の意識醸成を掲げる中で、市民・関係者と行政による「しあわせづくり活動」の手引書として、生の声や協働体験に基づく実践事例などを交えて整理しています。

皆様におかれましては、行政だけでは支え・補うことのできない「市民のしあわせ」について関心をお寄せいただくとともに、この計画へのご理解・ご協力、さらには行政と市民、関係者の皆さんによる「市民活動」への主体的な参加・参画を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、この計画の策定に際し、多様な場面・機会でご理解・ご協力並びにご支援をいただきました皆様に対し、心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

平成21年3月

庄原市長 滝口季彦

目 次

第1章 地域福祉計画とは	1
1. 地域福祉計画の特性	2
2. 地域福祉の意味	4
3. 「しあわせ」の意味	5
4. 新しい福祉	6
5. 地域福祉の推進	7
第2章 地域福祉の姿	9
1. 市民がイメージする福祉	10
2. 市民が描く地域福祉の姿	11
第3章 推進のステップ1（仲間づくり）	15
1. 仲間を集めよう	16
第4章 推進のステップ2（意見の収集）	17
1. 市民の視点で棚卸し	18
2. 市民視点での優先課題	21
3. 地域別の課題	24
第5章 推進のステップ3（リーディングプロジェクト）	27
1. リーディングプロジェクトの趣旨と設定	28
2. 成立したリーディングプロジェクト	29
3. 企画書の作成	30
4. リーディングプロジェクトの実施と評価	32
第6章 推進のステップ4（しあわせづくりへのシナリオ）	37
1. 里山委員会の活動に学ぶ	38
2. 活動組織の結成と連携	39
3. 事務局の体制	40
4. 推進体制の概要図	41
参考資料	42

第1章 地域福祉計画とは

1. 地域福祉計画の特性

(1) 法的根拠と重視すべき視点

地域福祉計画は、社会福祉法に規定する行政計画（任意計画）です。

計画は、目的を合理的に達成する方法・手段を記し、具体的に何が達成できたのかという「結果」を求められることが一般的ですが、地域福祉計画は、そうした「結果」以上に計画策定を通して、周囲の環境にいかなる機能を果たしたかという「過程」が重視されており、他の行政計画とは異なる一面を持っています。

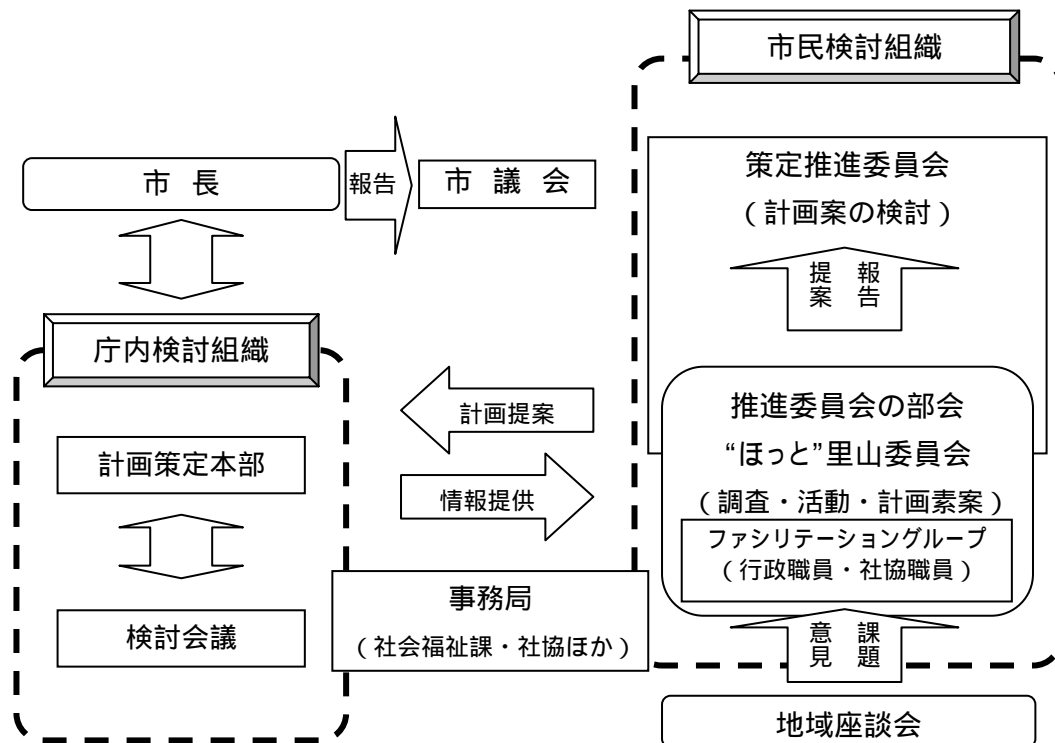
社会福祉法（抜粋）
 （市町村地域福祉計画）

第107条 市町村は、地方自治法第2条第4項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

(1) 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
 (2) 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
 (3) 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

(2) 特徴的な策定体制

本市の地域福祉計画は、「策定の過程が重視される計画」という性格を踏まえ、行政職員、関係団体職員、100名を超える公募の一般市民で“ほっと”里山委員会を結成し、そこでの意見交換や実践活動など、まさに「協働を体感」しながら計画素案を作成しています。



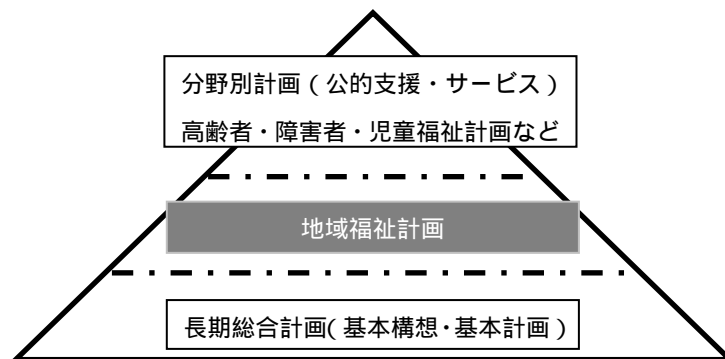
(3) 計画の目的

地域福祉計画の目的は、「地域福祉の実現と推進」にほかなりません。

しかし、求められる姿や具体的な推進方法は極めて多様であり、また、時代背景や環境に応じて変化することにも留意が必要です。

(4) 計画の位置付け

行政計画の視点から見ると、地域福祉計画は、「共助」の理念によって分野別計画を支え・補うとともに、長期総合計画と分野別計画を結ぶ役割を有しています。



「共助(互助)」とは、互いに助け合うことを意味し、一般的に、「自助(自分の力だけで事を成し遂げること)」、
「公助(公による支援のこと)」と対比される。

(5) 計画期間

計画の対象期間は、平成21年度から平成25年度までの5年間とします。

2. 地域福祉の意味

「地域」も「福祉」も、私たちの暮らしの中で親しみのある「ことば」です。

では、「地域福祉」はどうでしょう。行政が実施する福祉施策や社会福祉協議会が行う支援事業、自治振興区での取り組みや集落内の活動など、誰もが多様な姿や形を想像されると思います。

すべてが「地域福祉」であることに間違いありませんが、この計画では、少し視点を変えて「地域福祉」を考えます。

(1) 地域とは？

「地域」とは、範囲を限定した土地や区域を意味しますが、使用する場面や項目によって、その範囲は異なります。

この計画では、地域を「一番、身近な生活圏域から市域まで」と捉え、テーマや課題を共有できる近隣者や仲間が集うことのできる程度と考えています。

(2) 福祉とは？

広辞苑によると、「福祉」とは、ひとつには「しあわせ」を意味し、今ひとつは「公的支援やサービスによる生活の安定・充足」を意味するとあります。

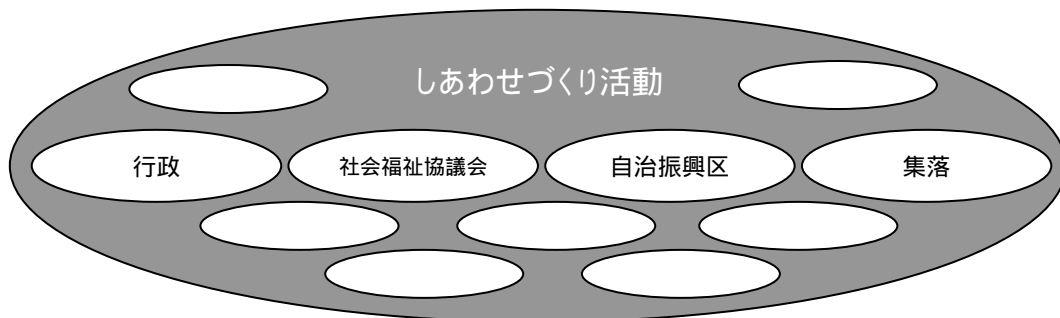
また、“ほっと”里山委員会の皆さんに「福祉のイメージ」を問いかけてみると、「好きな色」や「笑顔」、「みんなの利益」や「充足」、「ほっとする景色や感動」など、さまざまな答えが返ってきました。

一般的には、公的支援やサービスの提供。すなわち「与えるもの、^{ほどこ}施すもの」を意図する例が多く、市民の意識・感覚もほぼ同様です。

しかし、本来の意味や広義の解釈としては、「しあわせ」と捉える必要があり、行政施策の目的として掲げられる「住民福祉の増進」などは、まさに「市民のしあわせ」を意味しています。

(3) 地域福祉とは？

前述の「地域」や「福祉」の意味を踏まえ、この計画では、地域福祉を「身近な場所での市民のしあわせ」と定義し、地域福祉計画を「しあわせづくり活動計画」と称するものとします。



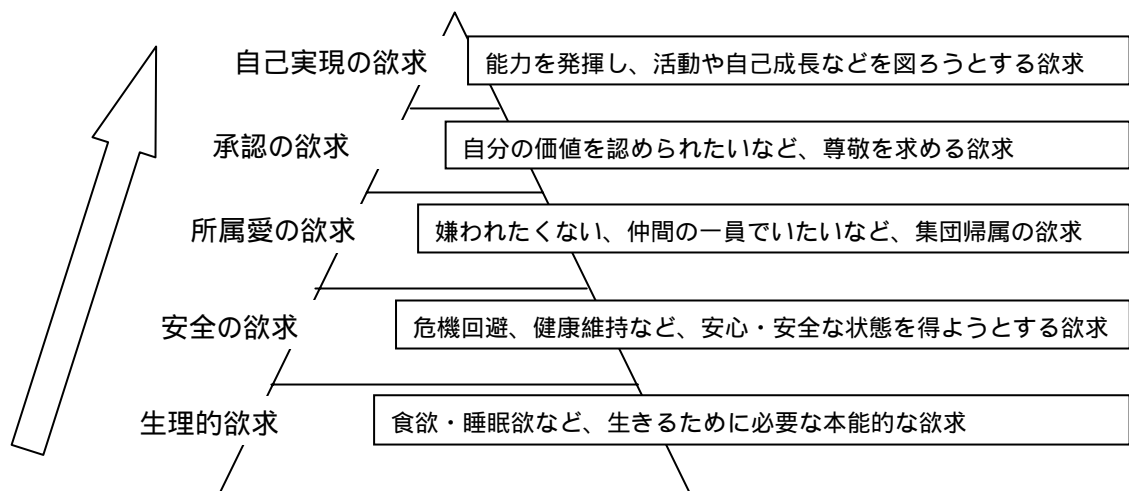
3. 「しあわせ」の意味

では、「しあわせ」とは何でしょう。「満足感」や「達成感」、「運が良いこと」など、人それぞれに十人十色のイメージが浮かび、明確な答えを求めることはできません。

「しあわせ」は、その人の感覚であり、望む内容や生活環境、健康状態や価値観などによって、当然に異なるものですが、ここでは「欲求が満たされた感覚」という視点で、心理学者A.H.マズロー（Maslow）が提唱した「5段階欲求説」について紹介します。

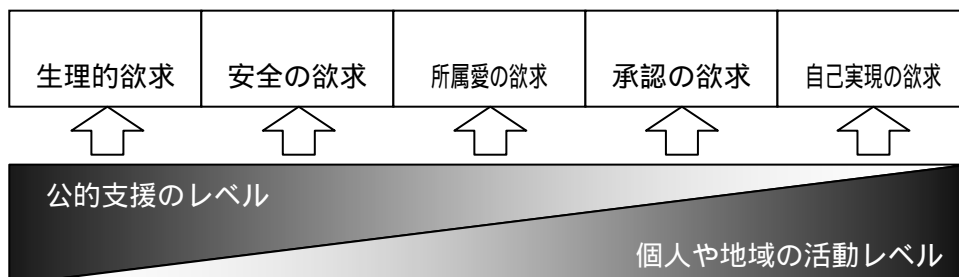
(1) 5段階欲求説

マズローの説は、「人間の欲求」を5段階に整理し、ある段階の欲求が満たされると、次の欲求に駆られるとしています。



(2) 5段階欲求の実現アプローチ

欲求の実現には、本人の努力だけでなく、公的な支援（保険制度や生活保護など）や地域・職場での活動など、まわりの環境が影響するとともに、その影響範囲は、欲求の段階において変化すると考えられます。

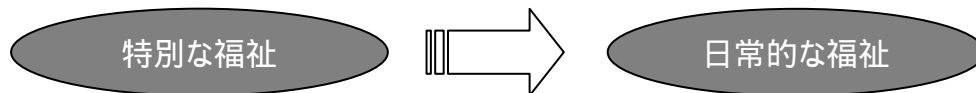


4. 新しい福祉

少子高齢化の進行や住民ニーズの多様化、地域経済の低迷など、社会・経済環境が変動する中で求められる「福祉の姿」も変化しており、この計画では、次のような新たな福祉（しあわせ）をイメージしています。

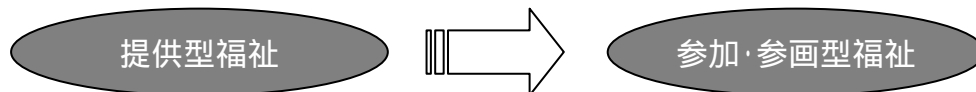
(1) すべての市民が享受できる福祉 **意識づくり**

障害者や高齢者、低所得者など、特定の人だけが対象ではなく、すべての市民が日常的に享受できる福祉（しあわせ）。



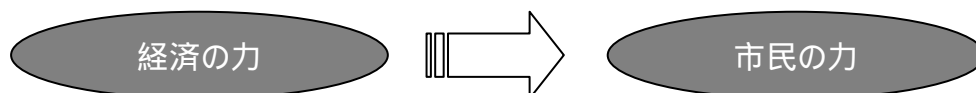
(2) 市民の参加・参画による福祉 **仕組みづくり**

行政や社会福祉協議会、自治振興区など、特定の団体が提供するだけでなく、市民の参加・参画によって実現する福祉（しあわせ）。



(3) 市民の力を資源とする福祉 **人づくり**

経済（お金）だけを資源とするのではなく、人材（リーダー）を育て、また、人材が育つ仕組みを構築することで、市民の力を活かし実現する福祉（しあわせ）。



5. 地域福祉の推進

地域福祉を推進する鍵は、人づくり（育成）と仕組みづくり（システム）にあります。

今回の“ほっと”里山委員会の取り組みは、まさに先駆的な例示であり、今後、“ほっと”里山委員会のような協働活動が継続的に行われ、さらに広がりを見せることが求められています。

(1) 推進のキーワード

自律

「してあげる」「してもらう」という一方向ではなく、双方向の福祉の実現に向けて、「したいこと」「してほしいこと」を表現できる個人形成が必要です。

多様性

一人ひとりが「しあわせ」を実現するためのテーマや方法は多種多様であり、「違いを認め合う」関係づくりが必要です。

合意形成

「違いを認め合う」ためには、声の大きな人の意見や多数決のみに頼るのではなく、少数意見・小さなつぶやきにも耳を傾け、納得できる議論が必要です。

プロセス志向

「誰もが納得」するためには、話し合いの経過（プロセス）や議論を大切にすることが必要です。

(2) 推進のポイント

地域福祉（身近な場所での市民のしあわせ）を実現するためには、当然に課題を克服しなければなりません。

そのためには、下図のように「日々の暮らしの中で、目的に向かって課題を押しながら険しい坂道を登っている状態」を、いかに容易に、また、確実に登ることができるかを検討し、実践する必要があります。

目的
(しあわせ)



坂道の改良

容易に登る方策のひとつとして、坂道をなだらかに改良することが考えられますが、これは、他の福祉計画などで示した公的支援や環境整備によって実施されています。

目的
(しあわせ)



分野別計画の役割



推進力の向上

別の方策として、課題を押しす力を強めるため、一人ひとりの力を向上させる（育成）こと、人と人がつながる仕組み（システム）をつくるのが考えられますが、これらは、地域福祉計画（しあわせづくり活動計画）が担う役割でもあります。

目的
(しあわせ)

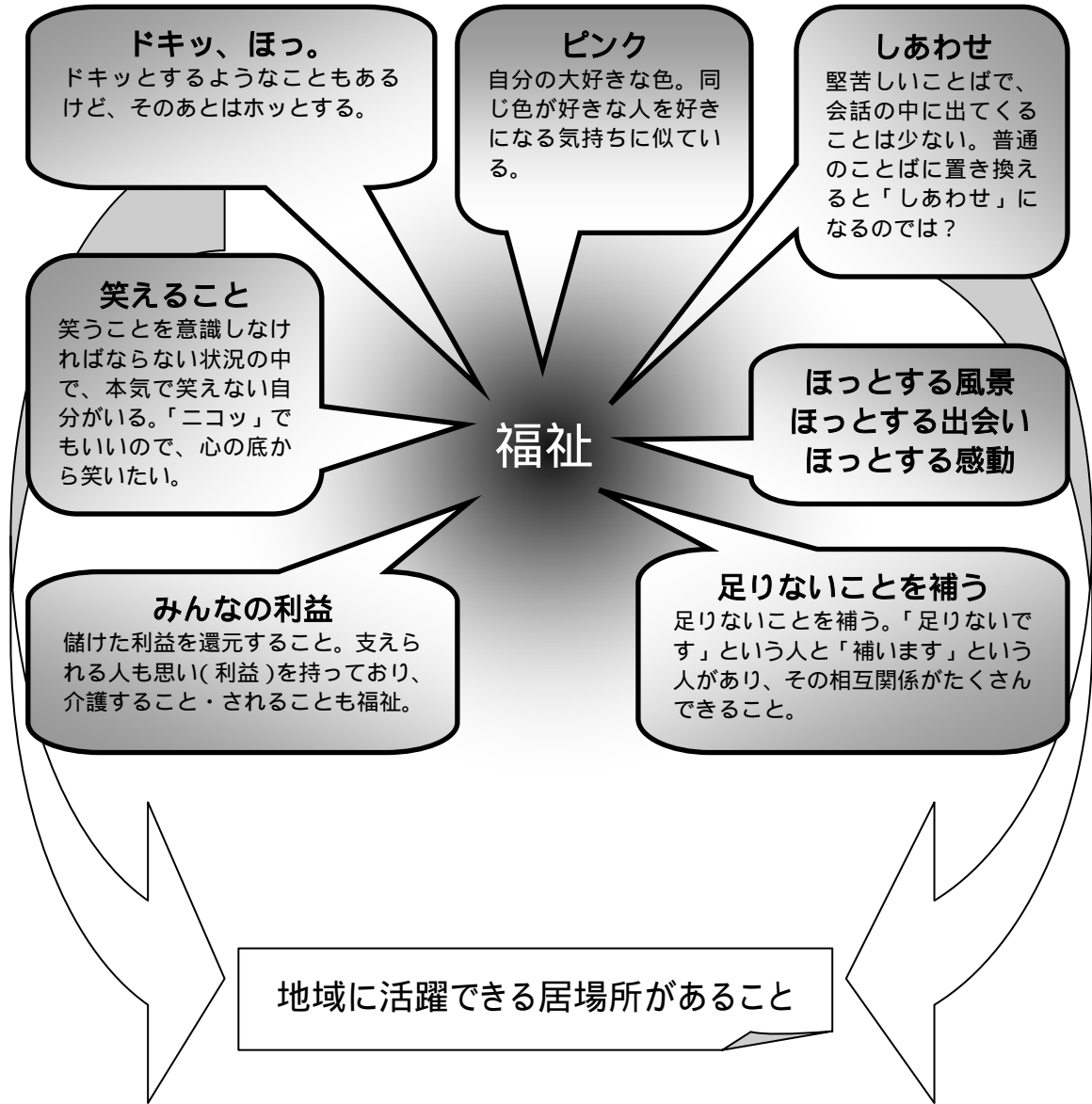


地域福祉計画の役割

第2章 地域福祉の姿

1. 市民がイメージする福祉

「福祉」のイメージについて、“ほっと”里山委員会で意見交換を行いました。価値観や視点が異なる中で、“これが福祉”という結論には至っていませんが、「地域に活躍できる居場所があること」を、ひとつの“かたち”として導きました。



2. 市民が描く地域福祉の姿

地域福祉（身近な場所での市民のしあわせ）が実現した姿も、人それぞれが“夢”として描く理想像であり、明確な“かたち”を示すことはできません。

しかし、“夢”を語るときは、誰もが情熱を持ち、その熱意が仲間を呼び、計画・実行・実現への原動力となることから、“夢・願い・想い”を込めて、8つのウイッシュポエム（wishpoem・願いの詩）を整理しています。

(1) ウイッシュポエム

このウイッシュポエムは、地域福祉（身近な場所での市民のしあわせ）を感じることでできる少し具体的な姿として、市民の声を集約したもので、キーワードは「こんな“まち”だったらいいね！」です。

地域福祉とは 身近な場所での市民のしあわせ

子どもたちの夢と笑顔が
あふれるまちだったらいいね！

一人ひとりがドキドキワクワク
活躍できるまちだったらいいね！

活気にあふれ、ずっと地域で
住み続けられるまちだったらいいね！

庄原の美しい生命（いのち）を守り、
伝えていけるまちだったらいいね！

幸せあふれる居場所が
たくさんあるまちだったらいいね！

みんなが家族のように
暮らせるまちだったらいいね！

やすらぎにつつまれた毎日が
送れるまちだったらいいね！

一人ひとりの幸せが実現できる
まちだったらいいね！

(2) ポエムに込めた“夢・願い・想い”

子どもたちの夢と笑顔が
あふれるまちだったらいいね！



庄原のいろんな場所で、
外で遊ぶ子どもの
元気な声が聞こえる。
少し腕白だけど、
たくさんの夢を抱いて育てている。
子どもたちも、
そんなふるさと庄原が
大好きだと思えるまちにしたい。

庄原に住む誰もが
いろんな知恵や経験や思いを持っている。
そんな一人ひとりの「自分らしさ」を、
地域で素直に表現することができれば、
時には誰かの役に立ったり、
時には誰かの力を借りたり、
もっと、
たくさんの「お互いさま」が生まれるはず。
「次は私の出番よ」と、
ドキドキワクワク活躍できるまちにしたい。

一人ひとりがドキドキワクワク
活躍できるまちだったらいいね！



活気にあふれ、ずっと地域で
住み続けられるまちだったらいいね！



庄原の活気を取り戻したい。
残念だけど、今は、
若者も出て行かざるを得ないのが現状。
働く場所が増え、
空き家や商店街の空き店舗が解消され、
若者が定着する
明るくにぎやかな町並み。
そんな活気にあふれるまちで、
生まれてから、いい年を重ねるまで、
ず〜っと
住み続けられるようにしたい。

放課後の道草、
 1日中、山や川で遊び、
 家路の途中で眺めた美しい夕日、
 どれも、子どものころの大切な思い出。
 庄原には
 四季折々に美しい姿を見せる自然と、
 その季節を楽しむために、ヒトが生み出した
 素晴らしい文化がある。
 大人になったとき、
 「故郷に帰ろう」と思えるような思い出を
 子どもたちに残し、伝えたい。

庄原の美しい生命(いのち)を守り、
 伝えていけるまちだったらいいね！



幸せあふれる居場所が
 たくさんあるまちだったらいいね！



子どもも、お父さんも、お母さんも
 おじいちゃんも、おばあちゃんも、
 そこにいけばいつでも、
 お茶をすすったり、飲んだり、食べたり、
 遊んだり、趣味を楽しんだり、
 ただ話をしたり、聞いたり、
 人と人がふれあう幸せで、
 満腹になるような居場所が
 近くにたくさんあるまちにしたい。

庄原にはいろんな人が住んでいるけど、
 同じ地域に住んでいる者同士、
 同じ地域が好きな者同士、
 元気にあいさつをして、
 一緒に笑ったり、時には叱ったり、
 お互いを気にかけて、相手の幸せを願う、
 他人であっても、身内のような
 温かい気持で暮らせるまちをつくっていきたい。

みんなが家族のように
 暮らせるまちだったらいいね！



やすらぎにつつまれた毎日が
送れるまちだったらいいね！



事故や犯罪が
向こうから逃げていくような、
のんびりとした時間の流れと、
住民の結束力。
そして、
いざというときに頼りになる
公共サービス。
そんな安心感に包まれながら、
「ありがとう」「幸せな人生だった」と
思えるまちにしたい。

この「ほっと」里山委員会」を通じて
みんなの思いを共有し、
みんなで考えたことを
実行し、
庄原市民一人ひとりの幸せが
実現できる
まちにしたい。

一人ひとりの幸せが実現できる
まちだったらいいね！



第3章 推進のステップ1 (仲間づくり)

1．仲間を集めよう

「チーム」と「グループ」。どちらも「集団」を意味しますが、一般的には、共通の目的で協力する集団を「チーム」と、共通の性質を有する集団を「グループ」と呼んでいます。

“協働”の意識を持ち、同じ目的に向かって活動するためには、まず、チームづくりが基本となることから、行政職員、関係団体職員、市民の皆さんに参加・参画を呼びかけ、仲間を集めることからスタートします。

(1) 計画策定での取り組み

今回の計画策定では、市と社会福祉協議会の職員で事務局を設置し、行政職員・関係団体職員へ協力を要請するとともに、広く市民の参画を募りました。



* 平成19年度「社協のつどい」で、活動の紹介と市民の仲間入りを呼びかけ

(2) 今後の仲間づくり

現在の“ほっと”里山委員会を母体としつつ、興味や関心、意欲・情熱の喚起に努め、新たな市民参加を呼びかけます。

また、分野別の行政計画に掲げた“市民との協働”を实践する視点から、関係市職員の仲間入りを積極的に進めます。

第4章 推進のステップ2 (意見の収集)

1. 市民の視点で^{たなおる}棚卸し

今の庄原市について、“ほっと”里山委員会で意見を集め、^{たなおる}棚卸しを行いました。

“いいな”と思うことや“よくないな”と感ずること、行政や地域に求めることなど、アンケートではなく生の声を聴き、「そうそう」と相槌を打ちながら現状の共有化を図っています。

次のとおり、主な意見を紹介します。

私のまちの好きなところ、なかなか“いいな”と思うところは？

<p>山からの贈り物 木や木炭など、いろいろなものを生み出してくれる。</p>	<p>気さくな人柄 隣近所に気を配る。用がなくてもお茶が出る。</p>	<p>元気な高齢者 生きがいや趣味を持っている高齢者が多い。農業をはじめ、やることがたくさんある。</p>
<p>のんびり 時間がゆっくりしている。あくせくしておらず落ち着ける。</p>	<p>まぶしい緑 都会に住んでいる姪に「木の匂いがする」と言われた。</p>	<p>食材が豊富 山の幸、川の幸がある。</p>
<p>米がうまい 水がきれいで米が美味しい。売っても、あげても喜ばれる。</p>	<p>澄んだ川 泳いだり、遊んだり、魚を捕ったり。次世代に伝えたい。</p>	<p>人情に厚い 温かすぎると思うときもあるけど、やっぱり温かい。</p>

私のまちの嫌いなところ、“よくないな”と思うところは？

<p>遠慮がち 「もっと自分を出せばいいのに」と思うことがある。</p>	<p>働く場が少ない 若者の働く場、やる気を活かせる場が少ない。</p>	<p>広すぎる 広すぎて、自分の地域以外のことがわからない。</p>
<p>移動に困る 高齢者には移動手段がない。マイクロバスなどを利用した生活交通の充実を望む。</p>	<p>人まかせ 「誰かが考え、やってくれる」という雰囲気が見え隠れ。</p>	<p>活気がほしい 閉めた店が目立ち、商店街も寂しい。子どもが外で遊ばない。</p>
<p>うわさ話や陰口 地域のことを知りすぎた人が多く、マイナスの面もある。</p>	<p>子どもの声が聞こえない 組合・20軒の中で子どもがいる家庭は1軒。淋しい。</p>	<p>干渉しないで 人のことが気になって行動を監視する。ほっといてほしい。</p>

私のまち、昔と比べて“変わったなー”と思うことは？

<p>明るくなった 街灯が増え、夜、歩きやすくなった。</p>	<p>近所づきあいの減少 今は、集まる機会も少ない。</p>	<p>今は二車線 嫁に来たときは一車線、でも、今は二車線。</p>
<p>車社会 昔は道端で出会いがあった。車社会の中で、歩く機会や出会いが減った。</p>	<p>おばちゃんの店が消えた 後継者がなく、大型スーパーになったところもある、おばちゃんとのやり取りできない。</p>	<p>田畑の荒廃 高齢化率が上昇し、跡取りがなく、荒れた田畑が残った。</p>
<p>子どもの声が聞こえない 子どもの数が減り、外で遊ぶ声も聞こえない。</p>	<p>よその子どもを叱れない 今、よその子を叱ったら親が出てくる。</p>	<p>結婚しない若者 結婚しない若者が多い。農家から農家に嫁がせない。</p>

よりよい“まち”にしていくために、最も必要なことは？

<p>意識改革 依存するのではなく、プラス思考が大切。自分が変わり、周りも変えよう。</p>	<p>交流 隣近所のつきあいが減った。交流することで活気が生まれる。</p>	<p>協調と主張 相手を理解しよう。でも自分の考えも持たなければ。</p>
<p>仲間をつくる 楽しい仲間づくり。そこに自分の居場所がある。</p>	<p>興味を持つ 地域を知ろうとする気持ちが大切。</p>	<p>世間姑の解消 足を引っ張るのじゃなく、背中を押すと活性化する。</p>
<p>つながる気持ち 人と人のつながりを深めて、“まち”づくりをしたい。</p>	<p>地域への誇り ここで生きていく限り、住んでいる自分に誇りを持たなければ、何も良くならない。</p>	<p>思いやり 一人ひとりに思いやりがあれば、周りの人が助けてくれる。</p>

よりよい“まち”をつくるために、行政に求められる役割は？

<p>わかりやすい行政 専門用語やカタカナが多い。言葉、説明、資料は分かりやすく。</p>	<p>声を聞いて実行 市民サービスは、市民の声を聞いて実行。</p>	<p>次へつなぐ 聞いた意見はそのままにせず、自分で解決できないことは、次へつなぐ。</p>
<p>現場を確認 住民の気持ちを知ること。机上でなく、自分の足で現場を確かめる。</p>	<p>提案・提示 命令ではなく、提案・提示をしてほしい。</p>	<p>補完 市民ではできないことをするのが行政。</p>
<p>パートナーシップ 上下ではなく、同じ目線で一緒に考える。</p>	<p>汗をかく 悩みを聞いて、知って、汗をかいてほしい。</p>	<p>奉仕者の姿勢 制度、手続きは、親切・丁寧・的確に説明して。</p>

よりよい“まち”をつくるために、地域・個人に求められる役割は？

<p>積極的に連携 参加し、出向き、加わり、動く。個人・地域が、同じ意志を持つ仲間と連携する。</p>	<p>自立心 できることは、個々でやる。</p>	<p>意見が言える場 少数意見でも言える場をつくる。</p>
<p>市民の出番 「わしゃさえん」ではなく、障害者や高齢者も含めた、市民の出番が必要。</p>	<p>自分のこととして 自分ができる、自分もできることを考える。</p>	<p>少しのお節介 自分の力を10としたとき、9から8は家族のため、1から2は人のために使う。</p>
<p>声に出す 何をしてほしいのか、どうしたいのか、自分の意見を声に出さなきゃ始まらない。</p>	<p>おたがいさま 地域で助け合うことが「おたがいさま」の第一歩。</p>	<p>協調性 折れるところは折れないと、まとまる方向へ向かない。</p>

よりよい“まち”をつくるために、あなた自身にできそうなことは？

<p>人集め 同じ意志・目標を持っている人を集めて仲間をつくる。</p>	<p>もっと外へ出る 地域行事へ参加することから始める。</p>	<p>一緒に働く 地域に仲間が少ないので、地域活動に参加していないけど、これからは頑張る。</p>
<p>人の心に火を付ける 人の心に火をつけ、活動への参加を呼びかける。</p>	<p>サポート 裏方としてできること。さいたらをする。</p>	<p>輪を広げる ボランティアの輪を広げる。</p>
<p>笑顔と笑い声 自分は笑顔、周りは笑いが生まれるようにしていく。</p>	<p>地域を好きになる 地域を知り、まずは自分の地域を好きになる。</p>	<p>一生懸命 何ごとも、格好つけずに正直に、一生懸命に取り組む。</p>

2. 市民視点での優先課題

これまでの過程で、夢を語り、今の庄原市を見つめました。

市民の描く夢と現実の間にあるものが、地域福祉（身近な場所での市民のしあわせ）を実現するために取り組むべき課題であり、優先課題として次の7項目を設定しています。

課題は、「あるべき姿」に到達していない原因を「不足しているもの」「補うべきもの」などの視点で整理することが一般的ですが、この計画では、前向きな姿勢を示すため「こんな活動しよう！」というフレーズで整理しています。

優先課題 1

誰もが気軽に集える福祉の拠点をつくろう！

主な問題点

- ・ 公共施設であっても、目的外利用などの規制が厳しいと利用しにくい。
- ・ 開放的な雰囲気や施設管理者の常駐がないと入りにくい。
- ・ 新たに整備するときは、交通の利便性や駐車場の確保が必要となる。

優先課題 2

一人ひとりに役割や出番がある地域づくりをすすめよう！

主な問題点

- ・ 地域での交流がないため、地域の特性や人の特技を知らない。
- ・ 地域や自分の良さに気づかず、年代に合わせた役割が認識されていない。
- ・ 何かしようとするすると批判を受け、あきらめや遠慮につながっている。
- ・ 「役割」や「出番」を特別なものと考えている。
- ・ 何かをするための仲間づくりができていない。

優先課題3

いろいろな思いを話し合える仲間づくりをしよう！

主な問題点

- ・気軽に話しができる場所がない。
- ・場所や機会があっても集まらない。
- ・リーダー的存在がいない。

優先課題4

福祉に対する意識改革をすすめよう！

主な問題点

- ・傍観している人、遠慮している人が多い。
- ・「してあげている」「してもらっている」の感覚がある。
- ・福祉を特別なものと捉えている。

優先課題5

小地域にみんなが気軽に集まれる場や機会を増やそう！

主な問題点

- ・リーダーの負担が大きく、言い出す人がいない。
- ・行ってみたいと思える行事や場が少ない。
- ・公共の場は制限が多く、使いにくい。

優先課題 6

地域の自慢を探し・創り・広め・好きになろう！

主な問題点

- ・住んでいる人は、地域の魅力に気づいていない。
- ・地域の将来を「明るいイメージ」で捉えている人が少ない。
- ・他人任せ、依存的な風潮が強い。

優先課題 7

みんなが生きがいや楽しさを感じる農林業を実現しよう！

主な問題点

- ・農林業分野での仲間づくりの機会がない。
- ・楽しさを感じるためには利益が求められるが、その方法を知らない。
- ・役割分担や生産のための連携ができていない。
- ・自分が生産した農産物の価値がわかっていない。

3. 地域別の課題

“ほっと”里山委員会では、各地域の意見を聴くため、市内14箇所の会場で2回にわたり「地域座談会」を開催しました。

委員会メンバーを進行役としたこの座談会では、各地域の課題を導き、次のとおり整理しています。

庄原地域

北地区

川北が大好きな子どもを増やそう！
健康で長生きの出来る取り組みをしよう！
地域の皆で声掛け運動をしよう！



高地区

農業・林業を活性化して地域再生をしよう！
思いやり支えあう地域をつくろう！
若者の定住をめざそう！

東地区

「お互い様」の気持ちを大切に、みんなで助け合える地域をつくろう！
コミュニケーションや交流を大切に地域づくりをすすめよう！
誰もが気軽に集える場をつくろう！

庄原地区

ぬくもりのある地域をつくろう！
寄って、話して、地域の輪（和）を広げよう！

山内地区

仕事や生き甲斐の持てる活動の場をつくろう！
地域の資源を有効活用・PRしよう！
お互いのことを気にかけて関係づくりをしよう！

敷信地区

安全なものを作って食べよう！
通院の手段を確保しよう！
世代間交流ができる場をつくろう！



峰田地区

食と農を考えよう！
お互いが助け合える地域つくろう！
年齢を問わず集まれる地域をつくろう！
峰田の歌をつくろう！

本村地区

本村の郷土史を残そう！
農産品・加工品・水などを生かした新しい活動を起こそう！
誰もが役割や出番を持てる地域にしよう！
学校を拠点に子どもたちとの交流事業をしよう！





高野地域

地域の和・話・輪をつくらう！
子どもの遊び場をつくらう！



比和地域

みんなが助け合って生活できる地域をつくらう！
いろいろな想いを話せる仲間づくりをしよう！
一人ひとりに役割や出番があるまちづくりをしよう！
地域で活動できる人材を育てよう！

口和地域

農林業で田舎生活を楽しもう！
地域行事や地域活動を活性化しよう！
口和の良さに気づいて、口和大好き子をつくらう！



西城地域

しあわせストーリーを広めよう！
いろんな思いを話し合える仲間づくりをしよう！
一人ひとりに役割や出番がある地域づくりをしよう！

東城地域

東城の自慢を発掘し・創り・広め・お宝にしよう！
ふるさと好きな子どもをみんなで育てよう！
「やってえーや」じゃのうて「やろうや〜」の気持ちが
あふれるまちづくりをしよう！
誰でも気軽に集まれる基地を創ろう！



総領地域

誰もが気軽に集える場所や機会をつくらう！
自然と共存し、今ある資源を活かそう！
一人ひとりが自分の出来ることを見つけ、活かそう！





第5章 推進のステップ3 (リーディングプロジェクト)

1. リーディングプロジェクトの趣旨と設定

本市の地域福祉計画は、「しあわせづくり活動計画」と称し、「地域福祉の実現と推進」を目的に掲げています。

今後、リーダーの育成や仲間づくり、協働と補完の意識に基づく「しあわせづくり活動」を行うこととなりますが、“ほっと”里山委員会では、その活動手法を溜め込むため、試験的に6つのリーディングプロジェクト（先導的活動）を設定し、企画・実施・評価を行っています。

(1) プロジェクトの前提

リーディングプロジェクトは、次の前提に基づき設定しています。

7つの優先課題に照らし、その活動が、どの課題解決につながるのかを示すこと。
自分自身が「元気やしあわせ」を感じ、周りの人たちと喜びを分かち合えること。
お金の力や誰かにやってもらうのではなく、自分たちの力でできること。

(2) 「この指とまれ」方式

リーディングプロジェクトは、次の方式で設定しました。

前提を踏まえて、参加者が「やりたいこと」のアイデアを提案



「このプロジェクトを実行したい」という強い思いを、参加者全員にプレゼンテーション



プロジェクトに賛同し、スタッフとなる人を募集



5人以上の賛同者が得られたプロジェクトのみを採用・実施

2．成立したリーディングプロジェクト

最終的に次の6企画が成立し、約3か月間、リーディングプロジェクト（先導的活動）に取り組んでいます。

1 いただきます！ 野菜畑からの素敵な贈り物

野菜を作ったり貰ったりしても、食べきれず捨てる時があります。漬物達人などの知恵と技を活用して、地元野菜の再生・再利用に取り組みます。

2 なんでも笑顔 お助けたい

子どもたちに昔ながらの遊びを伝え、また、一緒に料理をつくるなどして、この地に生まれ、この地で育つことへの喜びを感じてもらいたい。

3 心も体もしあわせ ”まんぷく食堂”

高齢者や若者を問わず、市民が知り合い、交流できる食事会を開催します。

4 この指とまれ “しょうばら”探検隊

合併により広域となった本市では、市民が知らない地域や景色、名所・名人も数多くあることから、それらの魅力を調査・発掘し、紹介します。

5 むじゅうりょくくうかん～居心地いいたまり場をつくろう～

市民が気軽に集える「たまり場」を設け、会話や食事を楽しみながら、交流を促進します。

6 お笑いダイエット大作戦

メタボリック・シンドロームが社会的問題として指摘される中、健康であり続けることは、本人・家族の「しあわせ」に直結する願いです。同じ悩みを持つ仲間を募り、楽しく愉快地にダイエットに挑戦します。

3．企画書の作成

事業や活動を行おうとするときは、事前の企画（計画）が必要です。

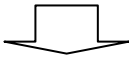
今回のリーディングプロジェクトにおいても、意見や情報を集めて企画書を作成し、それぞれの取り組みを開始しました。

(1) 企画のポイント

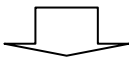
まず、やりたいこと、達成したいことへの「強い思い」を持ち、仲間同士での共有化を図ることが必要です。



次に、思いを実現するために「しなければならないこと、対象者が望んでいること（ニーズ）」を整理します。リーディングプロジェクトは、地域福祉（身近な場所での市民のしあわせ）の実現を前提としていることから、優先課題への対応部分がニーズに相当します。



次に、与えられた環境の中で「自分たちにできることや活用できる資源（シーズ）」を整理します。「あの田んぼを使おう」「あそこで料理をしよう」といった場所の情報、「あの人に頼んでみよう」「自分はこんなことができる」といった人材の情報、「スポンサーになってもらえそう」「寄付してくれるらしい」といった資金の情報など、みんなが持っている情報を出し合います。



前記の「思い」「ニーズ」「シーズ」を整理することで、具体的に「すること」「できること」が導かれるため、事前の企画会議で、この3要素を十分に協議することが大切です。

(2) PDCAサイクル

事業や活動を円滑・効果的に行うための手法として、PDCAサイクルの考え方が一般的となっています。これは、

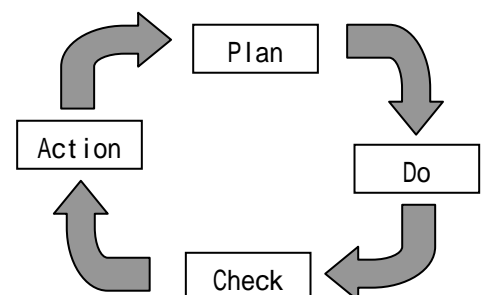
Plan（企画・計画）：実績や将来予測などに基づき、計画を作成する。

Do（実施・実行）：計画に沿って事業や活動を行う。

Check（点検・評価）：事業や活動が計画に沿っているかどうかを確認する。

Action（処置・改善）：計画に沿っていない部分を調べて処置をする。

の4段階を順次、実施し、1周したらサイクルを向上させて継続的な改善を図るという発想です。



(3) 企画書の事例

6つのリーディングプロジェクトの中から、企画書の一例を紹介します。

活動名	*わかりやすく親しみやすい活動名を考えよう！ いただきます！ 野菜畑からの素敵な贈り物
趣旨	*なぜ、この活動を行うのかの理由・背景は？ 市内には農家が多く、おいしい野菜もたくさんできます。しかし、収穫が一定時期に集中するため、余ってしまう野菜があることも事実です。 また、「食」は、生きることの基本ですが、輸入の野菜が出回る昨今、それらを原材料とした食品による健康被害も出ています。 安全でおいしい地元野菜を捨てる事なく使うため、有効な活用方法を工夫し、市内外に広め、誰もが元気になる活動を行いたいと考えます。
優先課題との関係	*地域福祉計画のどの部分を実践しようとしているか？ 一人ひとりに役割や出番がある地域づくりをすすめよう！ いろんな思いを話し合える仲間づくりをしよう！ 福祉に対する意識改革をすすめよう！ 地域の自慢を探し・創り・広め・好きになろう！ みんなが生きがいや楽しさを感じる農林業を実現しよう！
目標	*この活動で達成したいことはどんなことですか？ ・野菜を捨てずに大切に使いたい。 ・次世代へ野菜の有効活用（加工・保存方法など）を伝える。 ・人と人との関係づくり。 ・手作りの味を知った子どもを増やそう。 ・野菜を作る人、もらう人の喜びになる。 ・余っている野菜の新たな流通システムを作る。
対象者	*誰を対象にした活動ですか？ ・野菜を作っている人 ・野菜がなぜか余っている人 ・野菜の加工方法を知りたい人 ・食べたい人
資源	*この活動に使える手持ちの資源はどんなものですか？ ・家にある野菜 ・野菜に関する智恵や知識 ・「野菜をどうにかしたい」という思い
実施場所	*この活動の実施場所はどこですか？ ・庄原市保健センター（調理実習室）
運営者	*この活動を運営するのは誰ですか？ ・野菜を作っている人 ・漬物が得意な人 ・野菜料理が好きな人
しくみ	*この活動を実施する上で必要な協力体制やしくみを図示してみよう！
実施頻度	*この活動を実施する頻度はどの程度ですか？ 野菜のできる時期に1ヶ月に1回程度
活動資金	*この活動のための予算はどの程度ですか？どうやって確保しますか？ 一人500円程度（学びたい人や食べたい人から徴収する。）
広報	*この活動のPRをどのようにして実施しますか？ 口コミ インターネット 広報誌 新聞

4．リーディングプロジェクトの実施と評価

(1) プロジェクトの実施事例

6つのリーディングプロジェクトの中から、実施内容の一例を紹介します。

プロジェクト名：「いただきます！ 野菜畑からの素敵な贈り物」

子育て家庭を対象とした「つけもの道場」の開催

と き 平成20年8月9日（土）

ところ 庄原市保健センター

参加者 子育て家族12組

参加費 1家族・300円

- 内 容
- ・紙芝居及び子守り
 - ・漬物づくり（野菜のお土産付き）
 - ・会食及び交流会
 - ・野菜の保存研究及び漬物レシピの配布



地元ぶどう農家の視察研修

と き 平成20年8月17日（日）

ところ 口和町・岡崎ぶどう園

参加者 スタッフ家族



プロジェクト会議の開催

と き 平成20年7月2日（水）

平成20年7月17日（木）

平成20年10月3日（金）ほか



(2) プロジェクトの評価事例

6つのリーディングプロジェクトは、評価シートを作成して自己評価を行うとともに、“ほっと”里山委員会にその評価を報告し、意見交換を行っています。

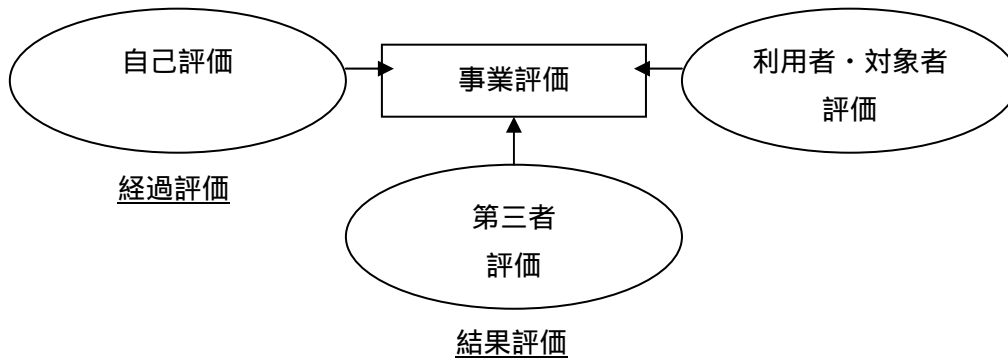
今回の評価は、結果のみを対象としたものではなく、プロセス・手法を中心に問題点や改善事項を洗い出すことで、次の活動展開へ活用することとしています。

自己評価は、次の6項目を基本に個別事項を設定し、5段階で行いました。

企画の際に設定した成果があったときは基準値の3点とし、基準値を上回ったときは4点、下回ったときは2点または1点、かかわっていないときは0点で評価しています。

- 目的・目標
- 計画
- 広報・PR
- チームワーク
- 運営
- 評価（成果）

今回は自己評価のみとしていますが、利用者や対象者がいる事業については、参加者数や回数だけでなく、満足度を中心とした利用者・対象者評価が求められますし、別に第三者の客観的な視点で評価を受ける方法もあります。



6つのリーディングプロジェクトの中から、評価結果の一例を紹介します。

プロジェクト名：「いただきます！ 野菜畑からの素敵な贈り物」

1 目的・目標

項目	平均点（4点満点）
活動は地域福祉計画の趣旨にあっていましたか	3.4
目標は明確でしたか	3.3
目標は実現性のあるものでしたか	3.2
チーム全員が納得できる目標設定でしたか	3.3
目標は住民のニーズにあっていましたか	3.3
全体	3.3
気づき	スタッフの中で目標は明確であった。今回はターゲットを若い世代としていたが、「漬物が若い世代に広がっていくかどうか疑問がある」という意見もあった。
改善点	評価を通して目標設定につなげていこう。

2 計画

項目	平均点（4点満点）
住民ニーズを知るための情報収集は適切でしたか	2.7
スタッフの人数は適切でしたか	3.3
実施時期・場所は適切に計画されていましたか	3.3
活動の手順や段取りはきちんとできていましたか	3.4
メンバーは計画の中身を良く理解していましたか	3.5
全体	3.2
気づき	スタッフ間でニーズの共有はできたが、市民ニーズの把握まではできなかった（スタッフの中にもターゲットの年代がいなかった）。
改善点	計画を立てるときからターゲットの人にも参画してもらい、ニーズを確認しながら進めていこう。

3 広報・PR

項目	平均点（4点満点）
参加してほしい対象者にきちんとPRできていましたか	3.1
PRの時期は適切でしたか	3.0
PRの準備期間は適切でしたか	3.0
PRの媒体や方法は適切でしたか	3.1
活動の目的や目標を明確に伝えることができましたか	3.2
全体	3.1
気づき	夏野菜に絞った内容にしたため、周知は市の女性児童課子育て支援係を通して、ひだまり広場のスタッフへ依頼した。他機関との連携はとる事ができた。
改善点	今後、広域に活動を行うためには、期間に余裕をもって計画しよう。

4 チームワーク

項目		平均点（4点満点）
メンバーは楽しく活動できましたか		3.8
メンバー間で意見を自由に出したり、受けとめたりする雰囲気がありましたか		3.7
メンバー一人ひとりが責任を持って行動できましたか		3.8
お互いが協力しあえましたか		3.8
メンバー同士の連携はとれていましたか		3.8
全体平均		3.8
気づき	<p>チームワークは最高！準備会は食べ物（漬物）を囲むことで話がはずみ、いろいろな意見を出し合いながらまとまっていった。</p> <p>スタッフの中にスーパーマンはいないけれど、それぞれが得意分野を発揮できた。また、それを活かせる雰囲気があった。店主語録を実行することができた。（無理をしない・強制しない・世のため人のためにしようとしなない・儲けをあてにしない）</p>	
改善点	なし	

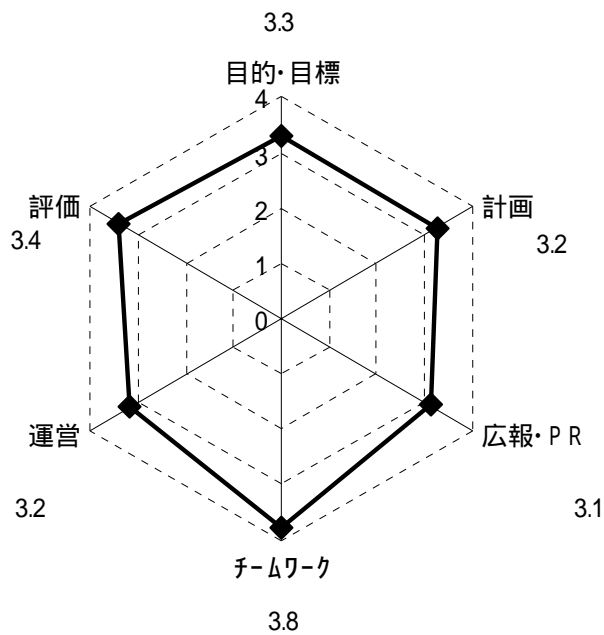
5 運営

項目		平均点（4点満点）
安全への配慮はできていましたか		3.3
事前準備は適切にできましたか		3.1
時間どおりに運営することができましたか		3.1
メンバー相互の役割分担は適切でしたか		3.3
関係機関・組織との連携は十分でしたか		3.1
全体平均		3.2
気づき	<p>子守り隊を結成し、子どもの安全へ配慮した。また、今回はあそびっこ広場として保険に加入していた。時間は予定どおりで終了したが、終了後の反省会の時間など予定時間を超過した。</p>	
改善点	スタッフの拘束時間など前もって確認し、時間設定していこう。	

6 評価（成果）

項目	平均点（4点満点）
活動の目標は達成できましたか	3.2
この活動を通じて仲間は増えましたか	3.6
活動は無理なく実践できましたか	3.2
メンバーの満足感・達成感がありましたか	3.7
活動の予算は適切でしたか	3.4
全体平均	3.4
気づき	会の中で参加者の感想は聞いたが、アンケートはとっていない。レシピ集を参考に、後日漬物を作っているかどうかの確認をしていない。この活動を通じて、2名の仲間が増えた。
改善点	連携機関（子育て支援係）に確認しよう。追跡調査が必要か？ 活動を継続し、広げていこう。

評価レーダーチャート：



どの項目も基準値の3点以上が達成できており、次のステップに進んでいける評価結果である。

第6章 推進のステップ4 (しあわせづくりへのシナリオ)

1．里山委員会の活動に学ぶ

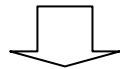
めざす目標に違いはあっても、“協働”の意識に基づく「市民活動」や「行政施策」は、決して難しいものでも、堅苦しいものでもありません。

“ほっと”里山委員会の活動が、そのことを明らかにするとともに、行政や市民が歩むべき方向・道筋を示しており、今後、各分野の施策に応用し、活用することが期待されています。

里山委員会の活動に学ぶべき手順を整理すると、おおむね以下のとおりです。

ステップ1（仲間づくり）

広報や新聞、口コミや地域内放送など、多様な方法で市民・関係者に参加・参画を呼びかけ、仲間を集めて“チームづくり”を行います。



ステップ2（意見の収集）

集まった仲間でテーマを決め、「夢」や「想い」、「やりたいこと」などについて意見交換を行います。このとき、必ず自分の意見を述べ、また、他人の意見は否定することなく聴き、まとめが必要なときは、合意が得られた方法で整理します。



ステップ3（企画・実施・評価・見直し）

(1) 活動内容の提案と決定

優先課題や地域課題との関係、自分たちの力でできることなど、前提事項を設定して「やりたいこと」を募集します。

提案者がその趣旨や内容を参加者にアピールして賛同者を募り、一定数以上の賛同があった活動を採用します。



(2) 企画と実施

賛同した仲間で情報や資源を集め、目標・期間などを設定して企画書を作成し、それぞれの役割分担にも留意しながら、計画的に活動を実施します。



(3) 評価と見直し

一定期間が経過したとき、賛同仲間や活動組織で内容や過程、結果などを評価し、活動継続の有無を決定するとともに、必要に応じて企画内容の見直しを行います。

2．活動組織の結成と連携

多くの仲間と学び、意見を交わし、協働活動を実践した“ほっと”里山委員会での取り組みは、小さいながらも確実な「しあわせづくり活動」の芽生えを印象付けており、この組織の継続と発展、さらには関係団体との連携が求められています。

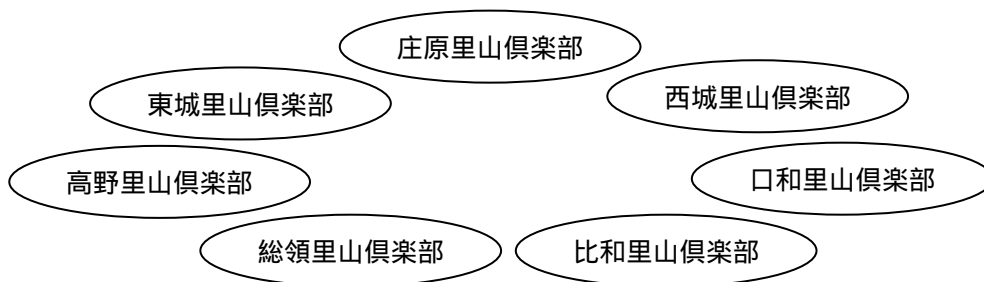
(1) “ほっと”里山委員会の再結成

里山委員会での取り組みを振り返ってみると、意欲の醸成やリーダー育成、市民活動の体験など、一定の成果を得ている反面、結成当初の盛り上がり比べ、後半は参加者の減少が否めず、また、人事異動による事務局職員の交替もあって、任意組織を維持することの難しさも感じています。

今後、改めて委員の登録を呼びかけ、市域全体を対象とした優先課題への対応組織、地域福祉計画（しあわせづくり活動計画）の推進母体として、その機能強化を図ります。

(2) 地域里山倶楽部（仮称）の結成

“ほっと”里山委員会が市域全体を対象とした組織であるのに対し、庄原地域・支所を単位とした地域里山倶楽部を別に結成し、当該地域における固有課題へ対応するとともに、地域福祉計画（しあわせづくり活動計画）を推進します。



(3) テーマ別でのチーム編成

“ほっと”里山委員会や地域里山倶楽部は、市域・地域の全体組織であり、その規模にもよりますが、研修や交流、意見交換などの場合を除き、常時の全体活動は難しいと考えられます。

したがって、具体的な「しあわせづくり活動」は、リーディングプロジェクトの例に倣^{なら}ってテーマ別チームを編成し、実施することとします。

(4) 自治振興区・自治会との連携

本市においては、全域を対象として88の自治振興区が組織され、既に活発な地域活動を展開されています。

おおむね全世帯が加入している自治振興区や自治会での取り組みは、当該地域における「あるべき地域福祉活動の姿・理想像」であることは明らかですが、一方では、すべての地域課題や住民ニーズに対応することも困難です。

市民個々の自発的な「しあわせづくり活動」によって培われた人材やシステムを、今後、自治振興区や自治会の活動に活かす視点をもって、これら地域組織とのゆるやかな連携に努めます。

3．事務局の体制

地域福祉計画（しあわせづくり活動計画）の周知や仲間集め、具体的な活動を実施するためには、その調整役・推進役となるべき事務局が必要です。

市民の力を集めた事務局体制を将来目標としつつ、当面は、これまでの構成員に新たな行政職員を加えることを基本に、行政内部での協議・調整を行います。

(1) “ほっと”里山委員会の事務局

“ほっと”里山委員会の事務局は、地域福祉計画（しあわせづくり活動計画）の推進に係る全体調整、会員の研修・交流事業、予算管理、資料作成等を担うものとし、次の組織に属する者で構成します。

- ・社会福祉課（主管）
- ・高齢者福祉課及び地域包括支援センター
- ・女性児童課
- ・保健医療課
- ・市民生活課
- ・自治振興課
- ・企画課
- ・教育委員会生涯学習課
- ・社会福祉協議会（福祉活動専門員）

(2) 地域里山倶楽部（仮称）の事務局

地域里山倶楽部の事務局は、庄原地域または支所管内における地域福祉計画（しあわせづくり活動計画）の推進役として、活動内容の調整や自治振興区・自治会への呼びかけ等を行います。

次の組織に属する者で構成します。

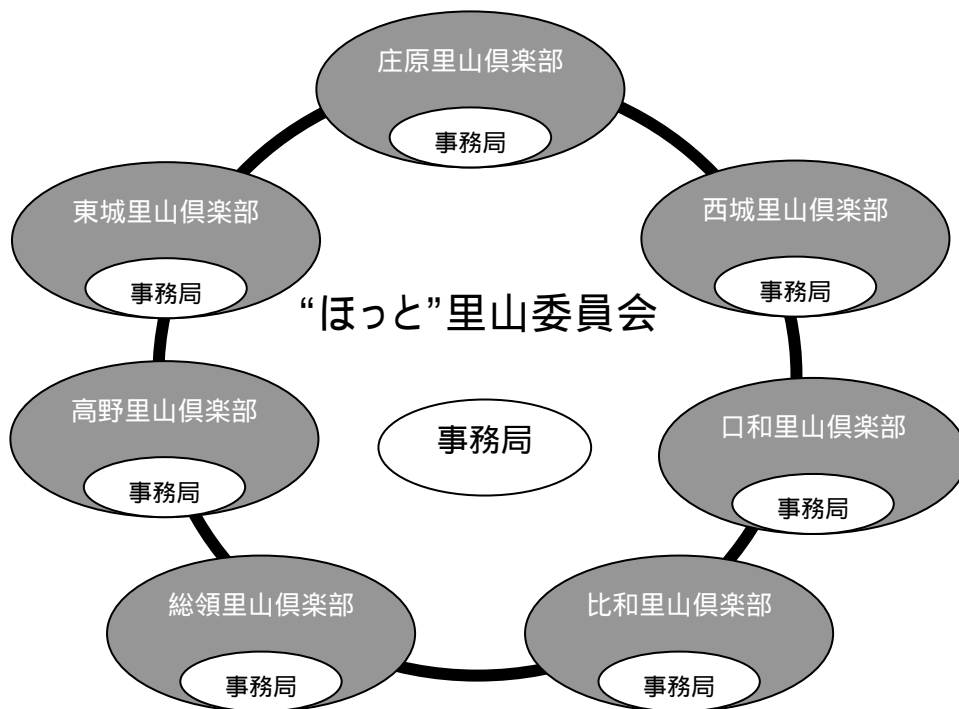
本庁（庄原地域）

- ・里山委員会の事務局構成員が兼務。ただし、社会福祉協議会にあっては、地区担当を設ける。

支所管内

- ・保健福祉室または市民生活室及び地域包括支援センター
- ・企画調整室
- ・地域振興室
- ・教育委員会所属部署
- ・社会福祉協議会地域センター（福祉活動専門員）

4．推進体制の概要図



地域福祉計画(編集)090313 参考資料

庄原市地域福祉計画策定推進委員会
(任期 平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	所属	氏名	備考
1	県立広島大学生命環境学部 准教授	村 田 和賀代	学識経験者
2	庄原市社会福祉協議会 会長	四 水 薫	福祉関係団体
3	庄原市民生委員児童委員	赤 水 高 子	〃
4	NPO 法人七塚原自然体験活動研修センター	徳 政 衛	地域活動実践者
5	アート多愛夢	白 川 牧 子	〃
6	自治振興区	住 田 鉄 也	〃
7	楽笑座友の会	児 玉 節	〃
8	自治振興活動	秋 山 義 治	〃
9	庄原地域住民代表	藤 原 鈴 子	住民代表
10	西城地域住民代表	倉 川 悦 子	〃
11	東城地域住民代表	倉 橋 都	〃
12	口和地域住民代表	門 野 康 江	〃
13	高野地域住民代表	須 安 登茂美	〃
14	比和地域住民代表	松 長 百合子	〃
15	総領地域住民代表	大 下 芳 枝	〃

第1回会議 平成20年8月1日(金)

第2回会議 平成21年2月9日(月)

第3回会議 平成21年2月12日(木)

庄原市地域福祉計画策定推進本部

	職 名	備 考
1	事務担当副市長	本部長
2	事業担当副市長	副本部長
3	教育長	
4	総務課長	
5	自治振興課長	
6	農林振興課長	
7	市民生活課長	
8	保健医療課長	
9	社会福祉課長	
10	高齢者福祉課長	
11	女性児童課長	
12	環境衛生課長	
13	教育総務課長	
14	西城支所保健福祉室長	
15	東城支所保健福祉室長	
16	口和支所市民生活室長	
17	高野支所市民生活室長	
18	比和支所市民生活室長	
19	総領支所市民生活室長	

幹事会議 平成19年 8月6日(月)

第1回本部会議 平成19年 8月8日(水)

検討会議 平成20年 7月14日(月)

第2回本部会議 平成20年 7月16日(水)

検討会議 平成21年 1月29日(木)

第3回本部会議 平成21年 1月30日(金)

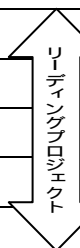
第4回本部会議 平成21年 3月10日(火)

“ほっと”里山委員会の活動経過

平成19年度

	里山委員会	地域座談会
平成19年10月29日	第1回（意欲の喚起ほか） 参加：80人	
平成19年11月20日	第2回（目標の共有） 参加：66人	
平成19年12月17日	第3回（現状の棚卸し） 参加：53人	
平成20年1月11日	第4回（優先課題の抽出） 参加：47人	
平成20年1月21日		地域座談会（高野） 参加：30人
平成20年1月23日		地域座談会（西城） 参加：28人
平成20年1月24日		地域座談会（本村） 参加：24人
平成20年1月27日		地域座談会（比和） 参加：34人 （総領） 参加：39人
平成20年1月28日		地域座談会（高） 参加：17人
平成20年1月29日		地域座談会（峰田） 参加：23人
平成20年1月31日		地域座談会（北） 参加：25人 （敷信） 参加：21人
平成20年2月1日		地域座談会（庄原） 参加：18人 （山内） 参加：18人 （口和） 参加：37人
平成20年2月5日		地域座談会（東城） 参加：39人
平成20年2月6日	第5回（課題解決の検討） 参加：45人	
平成20年2月7日		地域座談会（東） 参加：33人
平成20年2月13日		地域座談会（東城） 参加：30人
平成20年2月14日		地域座談会（本村） 参加：21人 （西城） 参加：21人
平成20年2月15日		地域座談会（庄原） 参加：13人
平成20年2月17日		地域座談会（比和） 参加：23人 （総領） 参加：23人
平成20年2月18日		地域座談会（高） 参加：16人
平成20年2月19日		地域座談会（峰田） 参加：20人
平成20年2月21日		地域座談会（敷信） 参加：15人 （高野） 参加：14人
平成20年2月22日		地域座談会（山内） 参加：16人 （口和） 参加：24人
平成20年2月27日		地域座談会（東） 参加：18人
平成20年2月28日		地域座談会（北） 参加：21人
平成20年3月3日	第6回（課題解決の検討） 参加：50人	
平成20年3月8日	地域福祉を広める報告会	

平成20年度

	里山委員会	備 考
平成20年4月25日	第7回(リープロのテーマ) 参加:45人	
平成20年5月20日	第8回(リープロ企画) 参加:50人	
平成20年6月23日	第9回(リープロ企画発表) 参加:46人	
平成20年7月28日	第10回(リープロ世話人会議) 参加:16人	
平成20年10月17日	第11回(リープロ評価) 参加:45人	
平成20年11月26日	第12回(推進体制づくり) 参加:31人	
平成21年2月5日	第13回(計画書素案検討) 参加:33人	
平成21年3月14日	地域福祉を広める報告会	

*リープロは、リーディングプロジェクト(先導的活動)の略

“ほっと”里山

しあわせづくり活動計画

庄原市地域福祉計画

平成 21 年 3 月発行

発行・編集：広島県庄原市

〒727-8501 広島県庄原市中本町一丁目 10-1

電話(0824)73-1111 FAX(0824)72-3322